

内藤財団時報

2015年9月 vol. 96
ISSN 0911-971X

科学奨励金・研究助成の贈呈を受けて

アレルギーと体内時計

山梨大学医学部
教授

中尾 篤人

花粉症やぜんそく、食物アレルギー等のアレルギー性疾患が日本や欧米でここ数十年來劇的に増加し、WHOは近年アレルギー疾患を“pandemic”（世界的流行状態）と呼び世界の人々の健康を脅かすものとして警告しています。つまりアレルギー対策はグローバルな喫緊の課題です。

でも実はアレルギー反応の基本は単純です。スギ等のアレルゲンがこのアレルゲンに対するIgE抗体を結合したマスト細胞を活性化するとヒスタミン等の化学物質が放出され、これらがくしゃみ、鼻水等の症状を引き起こします。だったらこの経路のどこかをブロックすれば、すぐ治療法ができそうですが上手くいっていません。つまりもう少し事態は複雑なのです。

私達は、「体内時計」がこのアレルギー反応に強く影響していると考えています。もともとアレルギーの症状は日内変動があることが知られていて（例 花粉症は朝起り易い）、この現象は「体内時計」がドライブしていることを私達は明らかにしました。さらに今回ご援助いただいた研究課題によって、アレルギーと「体内時計」の思いもよらない関係性を明らかにしていきます。この研究は、慢性荨麻疹などアレルゲンが見つからないアレルギー疾患の原因解明に貢献すると信じています。このような基礎研究を通して現代人を悩ますアレルギーのより良い治療法を見つけることが私達のライフワークです。

